

# 教務だより

2018年4月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 「合格体験記」を読もう！

茗溪塾塾長 宇野 雅春

「合格体験記 2018」の校正作業をする段階でほぼ全部の体験記を読破しました。「合格体験記」といえば皆が同じようなことを書くので、いささか退屈なのだろうと思っていた私の予想は、いい意味で裏切られました。なんだかとてもおもしろい…！個性を尊重するという時代の教育の在り方が、子供の変化として現れてきているのか、それぞれの在り方の多様性が文章ににじみ出ています。

私たちが、子供たちに言葉で伝えようとして、実は伝わり切れない多くのことがこの体験記の中にはたくさん書かれています。まずは「勉強嫌い」「グータラ」「受験についてはなにも考えていない」「悪い点を取るのが嫌で解かない」ような生徒が、まず何かをきっかけに変わっていきます。そして行き着く先は「もっと早く始めていればよかった」「KY（やり直し）の大切さ」「友達、先生 家族との関係」「楽しんで勉強する」という事になるのです。

そのプロセスが、それぞれで全く違うのだけれど、結論はすべて同じところに収束します。

親や先生が口を酸っぱくして言うお説教では伝わらないことが、この合格体験記では伝わるのではないか？と思うのです。言葉で伝わらないことも「体験」で伝えることができる！そんな風に力強く背中を押されたような気がしたのです。

でも、待てよ？ 実は、合格体験記は今に始まったことではなく毎年発刊しているものです。ここに合格体験記を寄せた生徒たちは、去年の合格体験記を読んでいないのではないか、という疑惑が頭をよぎりました。そこで思い当たったのは、そもそも勉強嫌いのやる気のない生徒が「合格体験記」なるものを読むわけがないという事です。

実際に受験で直面して初めて「理解」という地平に達するという事なのですが、もったいない気がして仕方ありません。同じ過ちを繰り返さないために「歴史」を学ぶように、「毎年毎年ある受験勉強」を成功させるために、まずは経験者の「体験記」を読むというのは必要欠くべからざることはないのか？

ところが、そこでさらに思い当りました。そもそも「合格体験記」を読まない生徒が、この「教務便り」を読むのかという問題です。答えははっきりしています。読むわけがないのです。確かに「体験記」を読むだけで人が変わるのであれば、何の苦労もないわけです。受験という現実が徐々に近づき、それぞれの子供たちの心の中に少しずつ形になっていくという事と、色んな「きっかけ」や行事などでその意識が変わっていくという事なのだと思います。

人の「体験」を自らのこととして読んでみる。それができればもしかしたら「合格体験記」は人を変える力を持つかもしれません。単なる知識が、認識に変わり自らを突き動かすことになる…。受験をいずれむかえる一人一人が自分に引きつけてこの体験記を読むということ…。そこには単なる知識としてではなく自分の進むべき方向を見定めるという目的達成があるかもしれません。この春、出会った大きな「課題」になりました。